スマート農業イノベーション推進会議 第1回水田作プラットフォーム 会議要旨

開催日時 及び場所	日時：令和7年10月14日（火）13:00 ～ 15:00 場所：農林水産省会議室
出席者 (敬称略)	大貫百合子（アーデルファーム株式会社）、佐藤拓郎（株式会社アグリーンハート）、高橋智和（農事組合法人ふくどみ）、平井雄志（有限会社穂海農耕）、福原悠平（有限会社フクハラファーム）
スマート農業技術の活用に関する出席者からの意見	**1　スマート農業技術に関する取組・課題** **（全般）** • スマート農業技術を導入するだけで全ての課題解決につながるわけではない。**作業の可視化、改善点の明確化などを行い、スマート農業技術を導入することが効果的であるかを判断**することが必要。 • 自動操舵システムなど**後付け可能な技術は、比較的安価で導入でき、複数機械に付け替えることも可能であるため、利用しやすい**技術である。 **（開発への期待）** • 圃場を傷つけない機械の切り返しのやり方や土壌の状態など、AIに学習させて**現場での工夫も動作に反映できるようなスマート農業技術の開発に期待**。 • 傾斜や規模など、**開発側が想定しているインフラ条件を満たせていない地域が未だ多く存在**。そのような**地域でも活用可能なスマート農業技術の開発を**促進することが必要。 • 農機本体を買い替えなくても、**OSを更新すれば最新機能が使える農機**の開発に期待。 • 農作業全体の大部分を占めている**除草作業を効率化できる自動化等の技術開発**の促進が重要。 • 既存のスマート農機の性能の向上のみならず、**耐用年数の延伸**も重要。 **（人材育成）** • 農作業の経験のない者がスマート農業技術を導入しても使いこなせない。**農作業の基本知識**が必須。 • **スマートグラスは、パートやアルバイト、障害のある方等が熟練者と同等の判断が可能**な支援技術として期待。 • 農業現場における技術指導等をサポートできる**人材育成に向けて、生成AIの有効活用**が期待。

スマート農業イノベーション推進会議 第1回水田作プラットフォーム 会議要旨

スマート農業技術の活用に関する出席者からの意見	**2 スマート農業技術の活用に向けた生産方式や環境整備等に関する取組・課題** **（圃場条件）** • スマート農業技術の効果を最大限に引き出すためには、**農地集約と大区画化が必須**。一定以上の規模がないと効率化にはつながらないため、**圃場整備に向けた国の一層の取組の推進**を期待。 • ロボットトラクターでも外周は人の手で操作する必要があるため、**中小規模圃場では中央の一部箇所でしか自動走行ができない**。一方、コンバインは容量の上限があり**圃場面積が広すぎても非効率となる場合がある**。圃場の条件を踏まえながら、**規模に応じた農機の導入が大切**。 • **水田において雑草の生育抑制は、トロトロ層が上手く形成できているかがポイント**である。重要なポイントをよく理解して圃場管理できないと技術の効果を最大限発揮できない。 • 電線等があることで、スマート農業技術活用時の安全性を考慮する必要があり、**圃場の周辺環境の整備も必要**。 **（その他）** • 規模拡大と比例して生産コストは低下するが、**事務運営を含めた管理作業が増大**することが課題。 • 農業用ドローンの活用を促進するため、**農業用等の特定条件において規制が更に緩和されるような対応**等に期待。 • **規格の統一が負担軽減につながる**。例えば、機器・用途別に複数のRTK基地局を使う場合がある。 • 技術の進歩が速いため、**販売店側も詳細な情報を把握できていない**場合があり、トラブル対応の遅れも課題。**販売者に対する技術指導**などの教育も必要。 **3 その他** • 農林水産省共通申請サービス（eMAFF）や地理情報共通管理システム（eMAFF地図）を有効活用した各種手続きの円滑化に期待。 • 大規模投資を促進するため、補助金以外でのキャッシュ・フローの改善策が必要。